

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題4-イソプロピルアニリンのオオミジンコ(*Daphnia magna*)に対する繁殖阻害試験試験番号

92055

試験方法

本試験は、OECD化学品テストガイドライン No.202「ミジンコ類、急性遊泳阻害試験及び繁殖試験」(1984年4月採択)の改訂版であるガイドラインNo.211「オオミジンコ繁殖試験」(1997年4月提案)に準拠して実施した。

- 1) 被験物質： 4-イソプロピルアニリン
- 2) 試験生物： オオミジンコ(*Daphnia magna*)
- 3) 生物数： 10頭/1試験区(1連につき1頭で1試験区10頭)
- 4) 暴露期間： 21日間
- 5) 暴露方式： 半止水式(日に1回、試験液を交換)
- 6) 試験濃度： 0.0300、0.0167、0.00926、0.00514及び0.00286 mg/L(公比：1.8)及び対照区
- 7) 連 数： 1試験区につき10連
- 8) 試験液量： 1試験容器(1連)につき80.0 mL
- 9) 試験水温： 20±1℃
- 10) 照 明： 16時間明(1,200 lux以下)/8時間暗
- 11) 試験液中の被験物質の分析： 高速液体クロマトグラフィー (HPLC)
(0、1、12、13、19及び20日目)

結 果

- 1) 21日間の親ミジンコの50%致死濃度(LC50)
>0.0300 mg/L
- 2) 21日間の50%繁殖阻害濃度(EC50)
=0.0162 mg/L(95%信頼限界：0.0152~0.0173 mg/L)
- 3) 最大無作用濃度(NOEC)
=0.00514 mg/L
- 4) 最小作用濃度(LOEC)
=0.00926 mg/L
(上記濃度は、全て設定濃度に基づく)

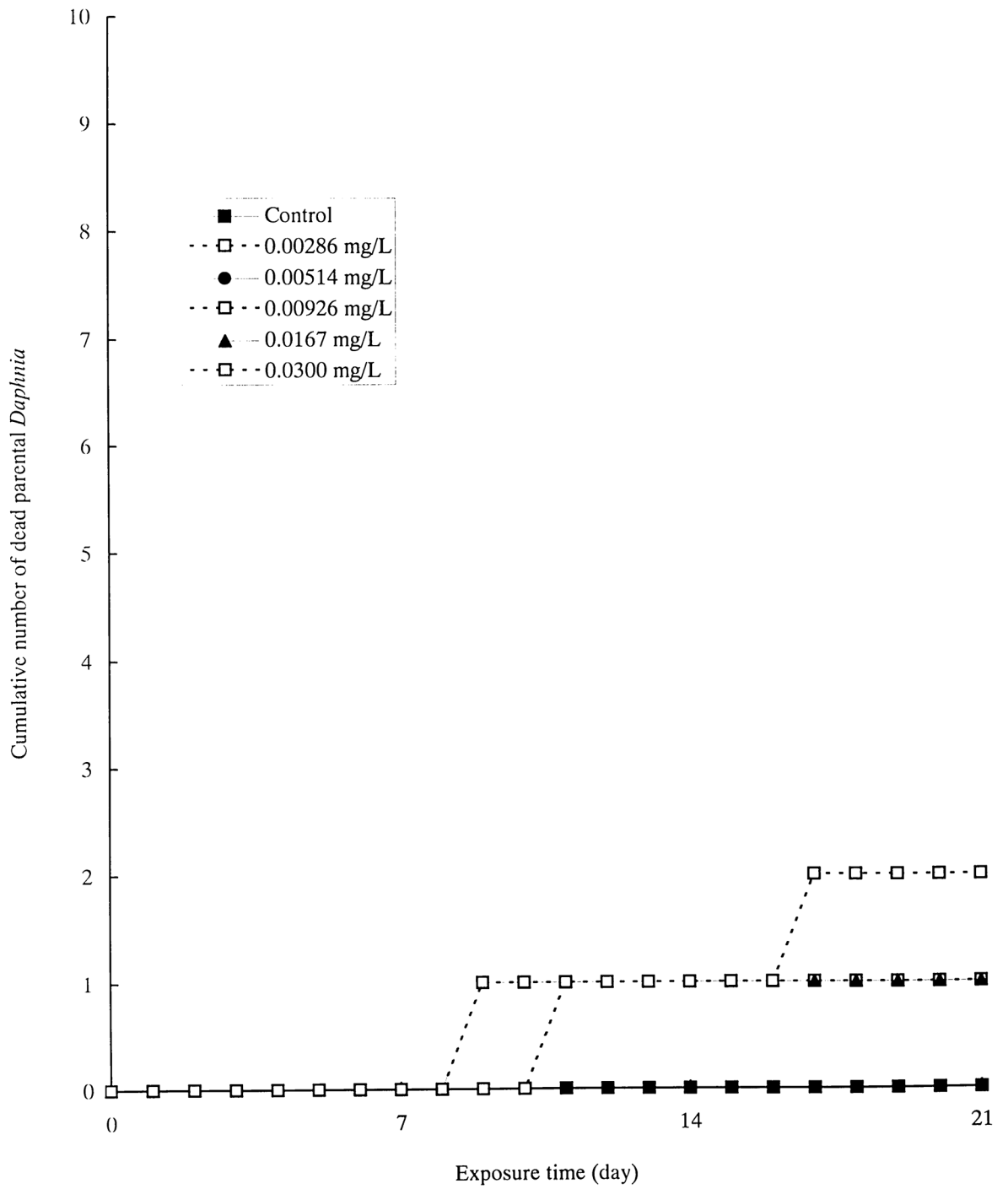


Figure 1. Cumulative number of dead parental *Daphnia*.

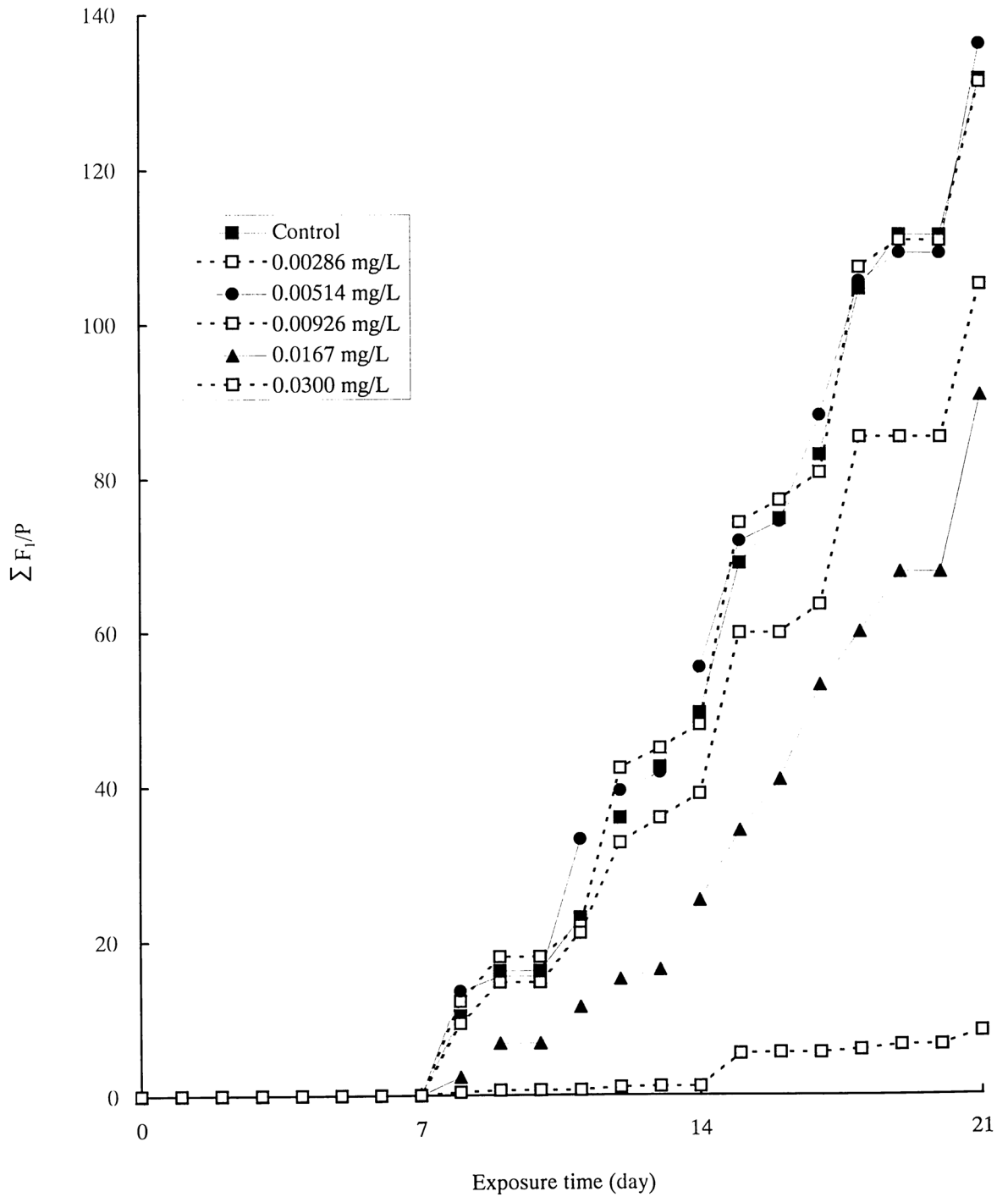


Figure 2. Mean cumulative number of juveniles produced per adult ($\Sigma F_1/P$).

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題4-イソプロピルアニリンのヒメダカ(*Oryzias latipes*)に対する急性毒性試験試験番号

92056

試験方法

本試験は、OECD化学品テストガイドライン No.203「魚類急性毒性試験」(1992年)に準拠して実施した。

- 1) 被験物質：4-イソプロピルアニリン
- 2) 試験生物：ヒメダカ(*Oryzias latipes*)
- 3) 生物数：10尾/1試験区(1連につき5尾で1試験区10尾)
- 4) 暴露期間：96時間
- 5) 暴露方式：半止水式(24時間毎)
- 6) 試験濃度：80.0、53.3、35.6、23.7、15.8、10.5 mg/L(公比：1.5)及び対照区
- 7) 連数：1試験区につき2連
- 8) 試験液量：1試験容器(1連)につき2.5 L
- 9) 試験水温：24±1℃
- 10) 照明：室内光、16時間明/8時間暗
- 11) エアレーション：なし
- 12) 試験液中の被験物質の分析：高速液体クロマトグラフィー(HPLC)
(暴露開始時、換水前)

結 果

- 1) 96時間の半数致死濃度 (LC50) =45.5 mg/L (95%信頼限界：35.6～53.3 mg/L)
- 2) 0%死亡最高濃度=35.6 mg/L
- 3) 100%死亡最低濃度=80.0 mg/L
(上記濃度は、全て設定濃度に基づく)

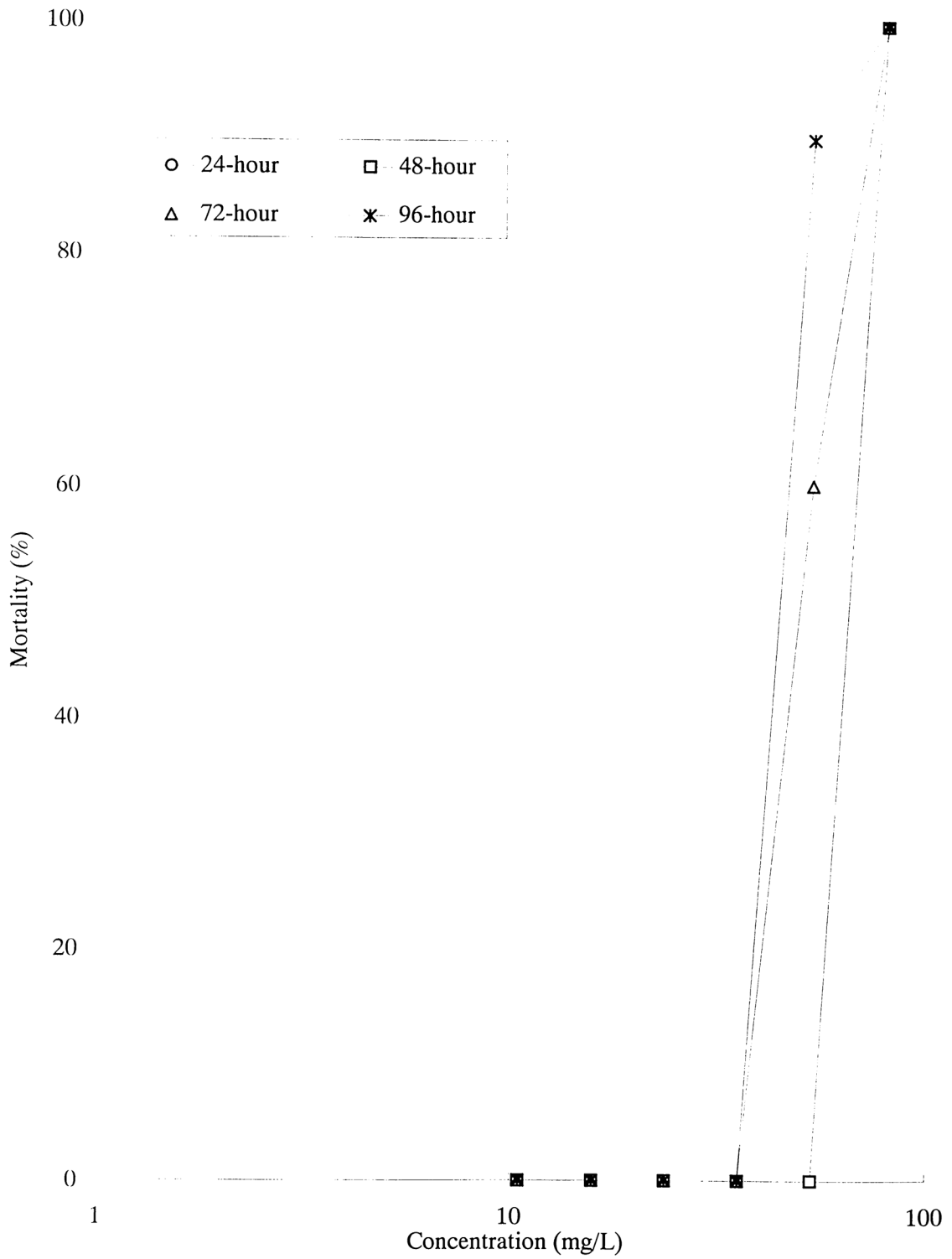


Figure 1. Concentration - toxicity curve of 4-isopropylaniline in orange killifish (*Oryzias latipes*).